

無理なく楽しくダイエットしよう

生活習慣病に関する正しい知識を身に付け、無理なく続けられる健康づくりを学ぼうと「からだ嬉しい! 楽しくダイエット」講演会が8月29日、いいあんべー家にて開催されました。始めに、保健師から健診の受診状況や受診のメリットが説明され、(医)健康ヴィレッジ21玄米クリニックの森田悦雄院長による講演では「肥満は外観の問題だけではなく、その背後に病気が忍び寄っている。改善する為には炭水化物を制限する方法もある」と実際のデータを基に分かりやすく紹介。参加者からは「明日から食生活を見直さなければ」という声があがりました。



▲森田悦雄院長



作文の部
最優秀作品 「大切にしようぼくたちの水」
優秀作品 「何げなく使ってた、大切な水」
 「水」
 「みんなが大切にできる水」

松尾 太郎 (西原小学校)
 奥平奈奈海 (坂田小学校)
 遠山 りん (坂田小学校)
 大城 秋桜 (西原南小学校)

標語の部
最優秀作品 「水の音 おっといけない しめわすれ」
優秀作品 「大切な水 みんなに必要 命の水」
 「もったいない!かぎりある水だよ、大切に!」
 「出す時は 注意しようよ 水かげん」

大城 安博 (坂田小学校)
 石嶺 咲恵 (西原小学校)
 長浜かりん (坂田小学校)
 大城 春伽 (西原南小学校)



標語の部
 最優秀受賞
 ▲大城 安博くん

作文の部 最優秀作品 大切にしようぼくたちの水

松尾 太郎 (西原小学校 4年)

ぼくたちは、毎日水をいっぱい使って生活しています。ごはんを作ったり、お風呂に入ったり、植物に水をあげたりなど、この地球では、水を使うことがたくさんあります。

しかし、水を出しっぱなしにしたり、むだ使いをすると、せっかく水をダムにためても、水はどんどんへっていき、なくなっていきます。

でも、そんなダムを助けてくれる味方がいます、それは雨です。雨は、人間が使える水をダムにためてくれます。そのほかにも、もっと味方はいます。それは、緑のダム、森林です。なぜ、森林はダムの味方かというと、森林は、雨から水をたくわえて、少しずつ水を流すからです。だから、緑のダムといわれているのです。

そして、ダムにためられた水は、そのままでは飲めません。なぜかという水には、ばいきんやよごれがついているからです。そのよごれやばいきんをとる所があり

ます。それは、じょう水場です。じょう水場では、いろいろな機かいを使って水をきれいにします。人間の目では見えないよごれやばいきんも、砂やじゃりを使ってきれいにします。また、水をきれいにするには板も使います。板は砂やじゃりのようにばいきんやよごれをこまかくはとれませんが、よごれた水をきれいにしてくれます。じょう水場でとてもピカピカにされた水は、配水池で何れもためられます。そのピカピカになった水が、家や工場、学校で使う時に、配水池から送られてきて、ぼくたちはとてもピカピカな水が使えるのです。

このように、ぼくたちがなにげなく使っている水は、長い時間と手間をかけてきれいにされ、送られてきます。そのおかげでぼくたちは、きれいで安全な水を使うことができるのです。だから、みなさんも、水を出しっぱなしにしたりむだ使いをするのは、やめましょう。そして、もし友だちがむだ使いをしていたら注意してあげましょう。

水を大切にしよう、ぼくたち1人ひとりがど力すれば、それが大きな力となって、水の節約につながるでしょう。この1人ひとりの心がけがぼくは、一番大切だと思います。

まちの話題

平成21年度 西原町 水道週間作文・標語表彰式

水道週間事業の一環として町内の小学4年生を対象に、限りある水資源(上水道)についての作文と標語を募集した「平成21年度西原町水道週間作文・標語」の表彰式が9月4日、町役場で行われました。最優秀受賞作品は約1年間にわたり、西原町の水道事業関係の懸垂幕などに活用され、町民の意識啓発に役立てられます。

将来の夢はプロ野球選手!

子ども達に野球の魅力や楽しさを伝え、プロから学ぶことで、夢や希望を与えようと「西原町少年野球教室」が8月19日、東崎公園ソフトボール場で開かれました。講師に元ヤクルトスワローズの杉浦亨さん、萩原多賀彦さん、五十嵐貴章さんを迎え、73名の小中学生が参加し、基礎練習の後、投手、捕手、野手に分かれ、ピッチングやバッティングなどの練習をしました。一人一人丁寧に指導していた杉浦さんは「常に意識をもって練習するのとしのないのでは、1年後に差が出てくる」と話し、西原南ファイターズの大城由樹キャプテンは「教えていただいたことを忘れず、(甲子園やプロの)夢に近づけるよう頑張ります」とお礼を述べました。



私たちハワイで成長しました

NPO法人西原町人づくり支援の会(新川武雄理事長)の協力のもと町が実施した「町中学生海外短期留学派遣事業」(7月26日~8月10日)の帰国報告会が8月25日、町立図書館で行われました。ハワイ州オアフ島で約2週間の短期留学を終えた10人の生徒は「沖縄そばや日本食が食べたくなった」「最初はホームシックになった」と沖縄が恋しくなったことや「ホストファミリーは優しく、何度も英語を教えてくれた」「友達ができ楽しかった」など楽しい思い出を、英語を交えながら報告しました。また「返事ははっきりしないと相手に迷惑をかける」「英語は話した分だけ身につく」「コミュニケーションの大切さ、忍耐力、自分の行動に責任を持つことが大事と学んだ」など、成長した様子うかがえる発表会となりました。



手作りロケット飛んでけ~!

地域ぐるみで子育て支援の輪を広げようと、与那城ペンギン子ども会(大城誠一代表)は、子どもと地域の人々が交わる場『じぶん学び塾』を、地域活性化交流事業の助成を受け、夏休み期間中(週3回)に開催しました。8月15日は比嘉良富さんが講師となり、青年会の協力のもと、水と空気の圧力を利用したペットボトルのロケット作り。手作りのペットボトルロケットが勢いよく飛ぶと、子どもから大人まで歓声が上がりました。親子で参加した大城七重さんは「子ども達を、地域の人と関わりを持って育てていきたい」と話していました。



西原クラブが ママさんバレー県大会で優勝!

「第35回おきぎんカトリアカップ九州ママさんバレーボール優勝大会県予選大会」(8月23日・那覇市)で、西原クラブが2部(35歳以上)で14年ぶりに優勝しました。與那嶺恵里奈キャプテンは「チームが一つになって成し遂げた優勝。九州大会では一戦一戦を大事にしたい」と意気込みを語りました。同クラブは11月の九州大会へ、県代表として派遣されます。



西原町の下水道の接続率向上を!

下水道に対する理解の高揚と接続率の向上を図るため、中城湾南部流域下水道促進協議会(会長・上岡西原町長)は9月4日、車両広報パレードを行いました。出発式で、上岡町長は「全国や沖縄の平均と比べ、西原町の下水道接続率は40%と低い。接続率向上に向け広報しよう」と訴えました。車両は西原町を出発して、中城村、与那原町、南城市までパレードし、地域住民に下水道の重要性をアピールしました。

